

今週（7月31日から8月4日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、当座預金残高が360兆円前後の高水準で推移する中、無担保コールO/Nは、先週の流れを引き継ぎ、週初から低いレートでスタートしたものの、2日の税揚げや積み後半にかけての資金調達ニーズの高まりから、徐々にレートが上昇していった。

地銀上位行・信託・大手証券からの調達水準は、31日～2日は▲0.08～▲0.07%、3日は▲0.07～▲0.065%、4日の前場は▲0.065～▲0.06%が中心となった。そのほかの地銀・邦銀からの調達水準は▲0.06～▲0.04%が中心となり、加重平均レートは▲0.064%から▲0.05%台に上昇していった。

タム物に関しては、中堅証券・ネット証券からの調達で、1W～1M物で0～0.01%での出会いが見られたほか、基礎残高に余裕がある地銀・邦銀からの調達で、1W～3W物で▲0.045～▲0.025%での出会いが見られた。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、3日に2W・8,000億円がオフアーされ、応札額1,310億円（期落ち額1,311億円）で札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.095～▲0.075%のレンジでの取引となった。週前半は▲0.095～▲0.085%程度での引き合いとなったが、2日のS/N(4-7)が週末の3日間を挟むことで投資家の資金調達意欲が高まり、▲0.090～▲0.085%程度に上昇した。3日のS/N(7-8)はTDB3M物発行の影響で▲0.085～▲0.075%での引き合い。4日のS/N(8-9)は利国、短国の買入オペが入り、業者の売りは減少したものの、投資家の売りが厚くレートは▲0.080%近辺での推移となった。

SCIは個別銘柄では5y130～132、10y335～347、20y160～161、30y50～55、40y9～10などのカレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、8月の短国買入オペのオフアー額が然程多くないと見込まれる中、先週からレートが全般的に上昇したものの、投資家の買い需要は鈍く、閑散なマーケットが続いた。

3日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.120%の出会いが見られたものの、買いの勢いがそれほど強くなかったこともあり、平均落札利回▲0.1178%、按分落札利回▲0.1142%と落ち着いた結果となった。セカンダリーは▲0.115～▲0.112%の出会いとやや小甘い展開となった。

4日には、短国買入オペが市場予想通りの5,000億円で実施された。応札額は1兆4,250億円と前回（オフアー額5,000億円、応札額1兆1,495億円）から増加したものの、平均利回較差+0.001%、按分利回較差±0.000%と落ち着いた結果となった。

31日に発表された国庫短期証券の買入れ方針では、「8月末の残高を25～27兆円程度とすることをめどとしつつ、金融市場に対する影響を考慮しながら1回当たりのオフアー金額を決定する」と発表された。7月末の日本銀行の国庫短期証券買入残高（金融機関からの買入残高）は26兆8,965億円と見込まれ、その内8月中旬に償還を迎えるものは3兆9,628億円であることから、8月に実施される短国買入オペは合計2～4兆円程度と予想される。

●CP市場

今週のCP市場は、月初ということもあり、商社・鉄鋼・石油業態等から大型の発行が見られたものの、週間発行総額は3,300億円程度にとどまり、週を通して閑散としたマーケットになった。a-1格以上の発行レートは、発行頻度の少ない銘柄に関してはやや強めの出会いも見られたものの、それ以外の銘柄に関しては、概ね0%近辺の落ち着いた水準で推移した。

7月末の発行残高は16兆6,271億円と、前月比で約1兆5,000億円、前年同月比で約2兆円の増加となった。中でも一般事業法人の発行残高は前月比で約1兆9,000億円の増加、前年同月比で約1兆円以上の増加となっており、低金利のCPを有効活用する事業法人の姿勢が鮮明となっている。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日物・ T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
7/31（月）	19,925.18	0.073	110.55	△ 0.064	△ 0.083	3,629,300
8/1（火）	19,985.79	0.070	110.30	△ 0.063	△ 0.088	3,641,000
8/2（水）	20,080.04	0.070	110.75	△ 0.063	△ 0.086	3,581,600
8/3（木）	20,029.26	0.065	110.72	△ 0.057	△ 0.086	3,564,200
8/4（金）	19,952.33	0.060	110.10	△ 0.054	△ 0.078	3,576,400

来週（8月7日から8月11日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
8/7 (月)	7月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 6月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)				6月の米消費者信用残高 7月のFRB 労働市場情勢指数
8/8 (火)	6月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 6月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 7月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	TB6M 26,000億円 8/10発行	30Y 8,000億円 8/10発行	エネルギー 対策借入 7,000億円 8/21借入	
8/9 (水)	7月のマネーストック(日銀 8:50)	TB3M 44,000億円 8/14発行			6月の米卸売売上高
8/10 (木)	6月の機械受注統計(内閣府 8:50) 7月の企業物価指数(日銀 8:50) 6月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	TB2M 発行中止	交付税借入 10,500億円 8/23借入		7月の米財政収支 7月の米生産者物価指数
8/11 (金)	山の日				7月の米消費者物価指数

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
8/7 (月)	600	▲ 8,700	▲ 8,100	全店共通 CP買入 社債買入 ETF買入 国債補完	▲ 1,300 ▲ 500 ▲ 100 500 100	1,300 500	0	▲ 8,100	TB3M発行▲44000償還40600 10Y物価連動発行▲4000
8/8 (火)	1,000	0	1,000	国債買入 短国買入		9,100 5,000	14,100	15,100	
8/9 (水)	0	▲ 6,000	▲ 6,000				0	▲ 6,000	交付税借入▲10500期日10500
8/10 (木)	▲ 1,000	▲ 8,000	▲ 9,000				0	▲ 9,000	TB6M発行▲26000償還26200 30Y発行▲8000
8/11 (金)	山の日								
週 間 合 計	600	▲ 22,700	▲ 22,100	—	▲ 1,800	15,900	14,100	▲ 8,000	

8/7は日銀予想、8/8以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期の後半に差し掛かることもあり、調達先の数や調達量が増える可能性が想定され、無担保コールO/Nは更に上昇すると予想する。

レボ市場は、積み最終にかけて投資家の資金調達意欲が継続的に残ると考えられ、足元は▲0.090～▲0.060%程度の推移と予想する。

短国市場は、8日に6M物、9日に3M物の入札が予定されている。10日に実施が見込まれる短国買入オペは10,000億円程度のオファーが予想される。短国買入オペが減少する中、海外投資家の動向次第では、短国全般のレートが▲0.10%に向けて上昇することも想定される。

CP市場は、8日にC P等買入オペが3,000億円で実施される予定となっている。前回オペの応札額が5,000億円程度と非常に少なく、参加者の応札姿勢次第では按分レートが低下することも予想され、落札結果が注目される。

主要なイベントとしては、11日の7月の米国CPIなどが挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によりリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入